

# 国語科（古典探究） 学習指導案

指導者 ○○○○

- 1 履修単位数 単位  
2 実施日時 令和7年 月 日（ ） 第 時限  
3 学 級 ○○HR（○○名）  
4 使用教科書 古典探究 古文編（大修館書店）  
5 単元（題材）名 登場人物の心情に着目して、和歌を解釈する力を養う  
（『蜻蛉日記』 「町の小路の女」）

## 6 単元設定の理由

### (1) 生徒観

○○HRの生徒は仲が良く、協力し合って活発に学習活動を行うことができる。これまでの授業では、随筆を用いた古典文法の習得や本文の内容理解、随筆の作成、故事成語の理解などに取り組んできた。その活動の中で、単語を暗記したり、助動詞の意味を覚えたりすることには活発に取り組むが、その使い方に苦戦している様子がある。分からない部分は現代語訳を暗記して、テストに臨む生徒も多く見受けられた。

### (2) 教材観

日記文学である『蜻蛉日記』で描かれるのは、一夫多妻の通い婚が基本であった平安時代を生きた、夫である兼家の多情と政治的体裁に悩む藤原道綱の母の人生である。現代とは全く異なる価値観で話が進んでいく本書の面白さは、作者が赤裸々に描く作者自身の喜びと苦しみにある。本単元で扱う「町の小路の女」では、他の女性のもとへ通う兼家に対して嫉妬する藤原道綱の母と、その嫉妬をものともせず、しらじらしい和歌を贈る兼家とのやり取りが書かれた場面である。古典常識と文法をもとに二人の心情や和歌を理解することで、この話の面白さに切り込み、古文の世界観に浸ることができるきっかけを作りたいと考え、本単元を設定した。

### (3) 指導観

『蜻蛉日記』を読むにあたり、平安貴族の恋愛における情景を想像しやすいという楽しさがある一方で、古典常識や文法といった基礎的な部分を押さえておかないと、深くまで理解できない部分もある。その部分を授業で押さえ話の流れを理解した上で、登場人物たちが交わす和歌に込められた心情を探ることで、この話を深く読み進めていきたい。そのような学習活動を通して登場人物たちの生きた毎日を感じることで、平安貴族たちとそれを取り巻く日常に、現代と似て非なる面白さを見出してもらいたい。

## 7 単元の目標

- (1) 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1) ア  
(2) 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] A (1) イ  
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

## 8 本単元における言語活動

藤原道綱の母が詠んだ和歌を、心情に着目してセリフに変換し、他者と共有し合う。

(関連： [思考力、判断力、表現力等] A (2) ウ)

## 9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ( (1) ア)	① 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ( A (1) イ)	① 日記文学であるということを踏まえて筆者の心情を読み取り、習得した古典の知識を駆使して内容を的確に捉えながら、活動を通して作品への理解を深めようとしている。

## 10 指導と評価の計画（全5時間）

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>導入プリントや予習プリントを使って、古典常識や文法を押さえながら、『蜻蛉日記』の本文を読解する。</li> </ul>	[知識・技能] ① 「行動の確認」 [思考・判断・表現] ① 「記述の分析」
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌に表現されている心情について、各自でワークシートにまとめる。</li> <li>現代語訳から読みとった心情をもとに、和歌をセリフに変換する。</li> <li>グループに分かれ、各々の作成したセリフについて話し合い、グループごとに1つのセリフにまとめる。</li> <li>Google Gemini で生成したイラストとセリフをGoogle スライドにまとめ、Google Classroom で共有する。</li> <li>共有されたスライドに、意見をコメントし合う。</li> <li>班で作成したスライドのポイントやイラストについて発表し合うことで、本時のまとめを行う。 (本時2/2)</li> </ul>	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」 [主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」 「行動の観察」

### 11 本時の目標

読みとった藤原道綱の母の心情をもとに、和歌をセリフに変換する。

### 12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 5分	○本時の目標を確認し、音読する。	○前時の活動を確認し、本時の目標の理解を促す。		
展開 40分	○藤原道綱の母の和歌について振り返る。 ○古典文法などを根拠にして心情を書き出し、セリフに変換する。 ○グループに分かれ、各々のセリフを持ち寄って一つのセリフを作成する。	○机間指導をしながら復習やグループワークの様子を観察し、補足が必要であれば適宜行う。 ○教師が見本を作成することによって、生徒に指針を提示する。		「行動の観察」 話し合い 「記述の分析」 ワークシート
	○作成したセリフとそれに見合ったAI生成イラストを用いて、Google スライドで発表資料を作成する。 ○Google Classroom で共有する。	○イラスト生成の際には、細やかな指示を意識しながら進めるよう促す。 ○工夫したポイントを引き出せるように、作成の過程をともに振り返る。	「思考・判断・表現」① ・心情を踏まえて、和歌を自分の言葉に変換している。	「記述の分析」 Google スライド 「行動の観察」 話し合い
	○グループごとのスライドにコメントを送信する。			
まとめ 5分	○班で作成したスライドを前に映し、ポイントやイラストなどについて発表し合う。	○リライトにどれだけ迫りどのような難しさに気付けたかを、発表を促すことで全体に共有する。		

### 13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の流れや古典常識、文法を根拠にして心情を理解し、その要素に着目することによって、和歌を自分の言葉で的確に表現することができている。</li> </ul>
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の本文や古典常識、文法など、ポイントとなる部分を振り返る。</li> <li>習得した基礎知識を使ってまず現代語訳を行えるよう促す。</li> </ul>